

就職してから21年を経た'09年の春に札幌へ転勤となり、北海道へ来ました。これまで構想計画から実施設計まで数多くの業務を行ってきましたが、北海道の業務は初めてで、「対象面積の割に受益者数が極端に少ない」ことにカルチャーショックを受けました。ある地区では、20haもの面積に地権者は2人「見える範囲が大体自分の土地だから用水路の路線は自由に決めていいよ」、「へっ！ここ自分の土地なの？1人10ha?!」、「分水工の名称は個人の名前が付いている！」などです。話には聞いていて判っていたつもりですが、実際目の当たりにすると、「へー」だの「ほー」だの感嘆の言葉ばかりが口をついて出てくることしばし。考えてみれば北海道の耕地面積は全国の25%を占めますが、農家数は2.5%程度、経営規模では10haを超える農家が道内農家の半分(酪農農家では100haという地権者も)で、ということであれば「う～ん、納得」です。当たり前のように大区画のほ場整備がなされ、大型機械による効率的な農作業を見ていると「さすが北海道！」と唸ってしまいます。しかし、減反や価格の自由化、高齢化による後継者不足、大型機械の導入、北海道の冬など、必ずしも、農業経営を円滑に行うことができる状況だけではないことから、私の持っている技術が少しでも農家の役に立つよう日々精進していきたいと思います。

学生時代は、青森にいましたが、北海道の冬はやっぱり「しばれるなあ」でした。

## 利根川陽一 (とねがわ よういち)

● 農業部門(農業土木)

### 勤務先

NTCコンサルタンツ株式会社  
e-mail : y.tonegawa@ntc-c.co.jp



→ 次号は、三浦 亨さん(農業部門)

私は、愛媛県松山市で生まれ育ちました。実家はみかん農家を営んでいたことから、高校は愛媛大学農学部附属高校で主に果樹園芸を学び、いずれは後継者か、農業に関わった仕事に就きたいと漠然と考えていました。

気がつけば大学進学とともに北海道にやって来て18年、私が故郷で過ごした年月を越えようという年になっていました。いまに至るキッカケとなったのが、高校時代の修学旅行にありました。生まれて初めて県外へ出て、北海道の大自然や農業にふれ、美味しいものを食すなど、こうした体験は相当にインパクトのあるもので、その後の進路を決めるキッカケとなったのです。

現在、私は国営農地再編整備の事業計画や補助事業の計画樹立業務に携わっております。その業務の際に思うことは、地元に入ってその地域の自然・経済・文化などを肌で感じるのがいかに大切であるか、ということです。高校時代の体験と同様で、実体験から得たものは感性を豊かにしてくれます。また、地域を知るうえでの重要な情報源となるからです。とは言え、実際の業務ではなかなか力を発揮できていないのが現実です。

これからも、いろいろな実体験を通して技術力の向上に励み、微力ではありますが、農業・農村の発展に貢献できるよう農業部門の技術士として活躍の場を広げていきたいと思っております。

## 平岡 俊造 (ひらおか しゅんぞう)

● 農業部門  
(農業土木、農村地域計画)

### 勤務先

株式会社 ルーラルエンジニア  
札幌支店



→ 次号は、飯野良枝さん(農業部門)